

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-01-15

## 特集私たちのみた世界：ヨーロッパのバス 旅行：4. イタリアからアルプスへ

菊池, 豊

---

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY / 法政地理

(巻 / Volume)

8

(開始ページ / Start Page)

40

(終了ページ / End Page)

42

(発行年 / Year)

1967-03-21

イス独得の家が点在しており、どこを見てもすぐ絵になる美しい風景である。森林限界(約1800m)を過ぎても牧草地はなお続き、雪の点在している2200mまで牧草が生えていた。しかもこの牧草はすべて栽培されたものであるようだ。これを見てスイスでは農地としての土地利用は、限界の限界まで利用しきつているように見えた。

私たちはロザースの北方数kmのところに住む、フィツシャー・ウツチさんと言う移牧をしていない農家を訪ねた。突然の訪問にもかかわらず主人夫婦はパイまで焼いて私たちを歓迎してくれた。この家の家族は16才と12才になる息子のほかアルバイトに来ている女の子がいた。この農家では12haの農地を持ち10頭の親牛と8頭の子牛と1頭の馬と100羽のにわとりを飼っていた。牛から得る収入は小遣い程度であつて第一の収入源は砂糖大根で、そして次にジャガイモ、次にトウモロコシであると言っていた。

家の中に入るときれいに磨かれた床、古い調度品、オルガンを弾いて唄を歌うおばさんの声、すべてに調和が取れていたがこの地方では中農の下位であると言ふのには驚いた。

スイスは四つの言葉の地区に分れている。ドイツ語地区、フランス語地区、イタリア語地区、そしてロマンシュ語を話すロマンシュ語地区である。(公用語はドイツ語、フランス語、イタリア語)高い山がほぼ中央を西東に走っているためにそれぞれ孤立化して四つの言葉が混ることなく、またスイス独特の言葉が生れることもなく四つの地区がはつきり分れているのであろう。そのために峠を越えたとたん同じスイスなのに話す言葉も周囲の感じも違うと言ふことがあつた。この家のアルバイトの女の子はドイツ語地区からこの農家のあるフランス語地区へアルバイトを兼ねながらフランス語を覚えに来ているそうである。そしておじさんの息子も来年はドイツ語地区へアルバイトに行くのだと話していた。

スイスは決して恵まれた自然環境ではないのに、その自然を観光や農業に巧みに利用し、人々は落ちついた素朴な生活を営んでいることを感じた。

学部4年 牧野内 俊文

#### 4 . イタリアからアルプスへ

イタリアの夏は暑く雨がふらないというのが通説になつている。8月14日の筆者のメモには「午後2時20分頃フィレンツェからローマ間のアウト・ストラダ。空に雲一点もなく、焼きつけるような太陽の下に、「太陽の道」を車は走る。熱のために「太陽の道」は雨あがりのようである。車はタイヤの摩擦を防ぐためスピードを落す。しきりに渴を覚ゆ。あと30分我慢を要する」とある。コモ付近の車内温度は34℃、ミラノでは車内温度36℃、直射温度38℃で、ローマ付近で

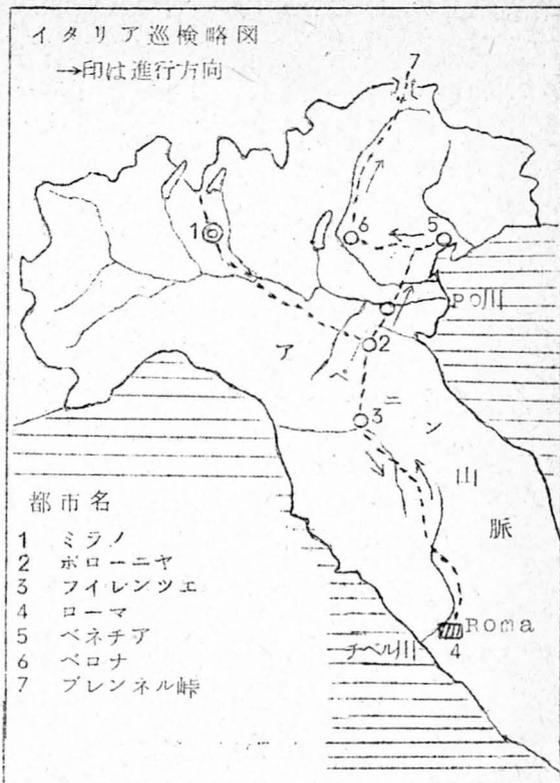
は42℃を記録した。8月13・14・15日は晴で気温は上昇したが、16・17日の両日は珍らしく雨が降り気温は著しく低下した。

8月16・17日のローマからベネチア（オーストリアまで降雨が続いた）にかけて、2日間激しい雨にみまわれた。車の窓際ではしめても雨滴がしたゝりおち、メモするにもビニールを覆つてする程であつた。しかも2年前ロガロン（北イタリア）では、降雨のために山崩れをおこし、ダムが決壊して2,000人近い死者を出している。また本年の11月にはアルノ川の氾濫で、フィレンツェの市街地は泥沼化し、有名な芸術品に相当な被害があり、死者や行方不明者も出ている。また陽が照ると気温は高くなるが、曇天・雨天では気温は低下

し、涼しい。以上のことから降雨と低温について地中海性気候を一考する必要がある。

**都市の印象** ミラノ市はまだオ二次大戦の残壊があるが、いかにも工業都市らしく工場が多く郊外に点在している。天候がやゝ曇りがちであつたためか、工場の煙と臭気で市街はくすんでいた。ドゥモ（Duomo）の広場は素晴らしく、高さ105mの尖頭立つマリア像はさすがに観光客の感嘆を誘っている。

フィレンツェ市内にはミケランジェロの広場、ポンテ・ベッキョのダンテ像、サンタ・マリア・カルミネ寺院、ウフィツィ美術館、ヴィーナス誕生等数々のルネサンス文化遺産が残されていて、これだけは芸術の都の名に恥じない。しかし、土曜・日曜の市内ツアーのためだつたせいか街はよごれが目立ちアルノ川は濁り、やたらに観光客が多くて、書物に紹介された「花の都」と大部事情を異にしている。たまたま貧民街を多く歩いたためであろうか。ミケランジェロの広場のある丘の一带は高級住宅地になつていて、丘の上からの眺望はすばらしい。だがどういふ訳かほこりつぼさを感じる。坂下の貧民窟に続く下町は一律に貧しい。蚊と蠅がないのが不思議でならない。やはり乾燥のためであろうか？伝染病はそのため蔓延しないのであろうか？私は貧民窟で子供を持つた婦人の容態を見て、芸術の都に対する認識を改めざるを得なかつた。



ローマの現実には古いもの（例えばコロセウム、フォロ・ロマーノ、パンテオン、バチカン市画、最高裁判所等）と、新しいもの（例えば外務省、オリンピック会場、ニュー・ローマ）が混在している。特にヨーロッパ随一といわれる超近代的な Termini Station は、新旧の配置を充分に取り入れた建物である。新しい建物はアメリカ型のものが強い。それ以上に市民のスタイルはアメリカナイズされている。

水の都 Venezia を訪れたとき、幸か不幸か雨にふられ、サン・マルコ寺院とゴンドラの景観は絵の如くであつた。ここでも観光客が群がり、自動車の波と定期観光船の混雑には閉口した。寺院広場に高い塔が建ち、鳩が観光客にたかつていた。どこにでもある風景である。たゞ寺院の一角に図書館を取り囲んで書店の売店が並んでいる。この売店で目ぼしいものはないかと物色していたら、人種不明の人に「あなたは日本人か」と聞かれた。その言葉は今でも不思議なくらい耳に残っている。

#### 巡検によるイタリアの栽培景観の例

北イタリアのアルプス山麓からロンバルディア平原にかけて養蚕業が発達している。更にこの地域は畑地の中に水田稲作が分布する。畑地と水田が同地点に存在し、その区別は用水路によつてゐる。水田稲作はポー川の水を灌漑していることがわかる。畑地も灌漑によつて小麦、ビート、トマト、ブドウ、トウモロコシを栽培する

ポローニヤからフィレンツェ・ローマ間は果樹栽培が卓越し、リンゴ、ナシ、モモ、ブドウが主である。ポローニヤからアペニンの山地や、フィレンツェ南部の丘陵地帯はオリーブが目立ち、ブドウ、トウモロコシ、牧草が間作されている。ポローニヤの北部地域は特に洋梨と桃とリンゴが中心で、ポー川の北側地域に移ると、果樹の集中栽培が漸減し普通畑と混合する。要するにイタリア北東部の果樹卓越地域はポローニヤ、ポー川流域を中心としたミラノ、フィレンツェ、ヴェネツィアを結ぶ三角形の地域である。この土地利用はアルプスに近づくに従い小規模になり、やがてアルプスの景観に没入してしまう。

都立葛飾商業高校 菊池 豊

## 5 . 南ドイツのむら

Augsburg を出発し、中世の面影をとどめるロマンティッシュ・シュトラッセへ向う。

この地方はアルプス前地といつて、アルプス山地とドナウ河谷との間にあたり、北方に緩やかな傾斜をもつ高原地帯である。アルプス氷河が残した東西方向の堆石列と、これに直角に伸びる湖沼との群が多く見られ、北へ向つている私達のバスは、この堆石丘を一越え二越えと横切り湖沼を左右に見ながら進む。